

令和2年度 事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

学校法人 上野学園

令和2年度 事業報告書

I 法人の概要

設置する学校・学部・学科等

上野学園大学

音楽学部 音楽学科 器楽コース
 声楽コース
 グローバル教養コース
 演奏家コース
 音楽専攻科 音楽学専攻
 器楽専攻
 声楽専攻

上野学園大学短期大学部

音楽科
 専攻科 音楽専攻

上野学園高等学校

全日制 普通科 特別進学コース
 総合進学コース
 全日制 音楽科 演奏家コース
 器楽・声楽コース

上野学園中学校

アドヴァンスト・コース
 プロGRESS・コース

学校・学部・学科等の学生・生徒数（令和2年5月1日現在）

学校	学部・学科等	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数
上野学園大学	音楽学部音楽学科	100	430	46	200
上野学園大学短期大学部	音楽科	50	100	40	80
上野学園高等学校	普通科	160	480	185	536
	音楽科			12	37
上野学園中学校		80	240	41	121
合 計		390	1260	324	974

役員等の概要（令和2年6月22日現在）

理事 5名 石橋香苗（理事長）、ジャン＝フランソワ・ミニエ、江幡亜木、松平恒和、土屋正孝
 監事 2名 鈴木達也、弘中絵里
 評議員 14名

教職員構成、人員数（令和2年5月1日現在）

教員／事務職員	専任	非常勤	合計
上野学園大学	24	79	102
上野学園大学短期大学部	8	58	66
上野学園高等学校	51	37	88
上野学園中学校			
事務職員	37	30	67
合 計	120	204	323

※学校基本調査に記載している人数に基づく。

上野学園の沿革

- 1904年 11月 建学の精神を「自覚」として、石橋藏五郎が私立上野女学校を創立
(下谷区上野桜木町2番地)
- 1910年 9月 財団法人私立上野高等女学校創設
- 1912年 10月 浅草区神吉町46番地(現台東区東上野4丁目)に移転
- 1914年 11月 私立上野実習女学校を、私立上野家政女学校に改称
- 1946年 4月 上野女子高等学院(文化科・家政科)を設置
上野高等女学校専攻科(英語科・被服科)を設置
財団法人上野学園に改称
上野高等女学校が東京都の音楽研究指定校となる
- 1947年 4月 上野学園中学校を設置(学校教育法実施により上野高等女学校および同専攻科は上野学園中学校・上野学園高等学校に改組。高等学校は翌年に設置される)
- 1949年 4月 上野学園高等学校に全国初の音楽科を設置
上野学園高等学校別科を設置
- 1951年 3月 学校法人上野学園に変更
- 1952年 4月 上野学園短期大学を開学し、音楽科を設置
石橋益恵、学長に就任
上野女子高等学院を廃止
- 1956年 4月 短期大学家政科を設置(2006年廃止)
- 1958年 4月 上野学園大学開学、音楽学部器楽学科・声楽学科・音楽教育学科を設置
石橋益恵、学長に就任
- 1959年 3月 短期大学音楽科を発展的に解消
- 1961年 3月 上野学園家政高等学院が上野学園草加高等学校に改組
- 1963年 4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のチェンバロ専門、音楽教育学科に音楽学専門を開設
- 1963年 10月 大学音楽学部、日本音楽史料の組織的収集に着手
- 1964年 4月 石橋藏五郎逝去
- 1964年 6月 石橋益恵、理事長に就任
- 1966年 4月 大学音楽専攻科(音楽教育専攻・器楽専攻・声楽専攻)を設置

	短期大学音楽科を再設置（埼玉県草加市）
1968年4月	短期大学専攻科（音楽専攻）を設置
1969年4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リコーダーの各専門を開設
1970年4月	大学音楽専攻科の音楽教育専攻を音楽学専攻に改称
1971年4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のギター専門を開設
1973年4月	研究施設、上野学園日本音楽資料室を創設
1974年11月	創立70周年記念講堂（石橋メモリアルホール）竣工
1981年4月	石橋益恵、学園長に就任 石橋裕、上野学園大学および上野学園短期大学長に就任
1985年4月	短期大学家政科を草加キャンパスに移転、短期大学を集約し、名称を上野学園大学短期大学部に改称 短期大学部人文学科（英語専攻・文化専攻）を設置
1992年2月	石橋益恵逝去
1992年3月	石橋裕、理事長に就任
1992年4月	上野学園大学短期大学部専攻科国際文化専攻設置
1995年4月	短期大学部人文学科を大学国際文化学部へ改組転換、英語と英国・アイルランド文化コース、スペイン語とイベリア、ラテン・アメリカ文化コース設置
1996年3月	国際文化学部への改組転換により、短大部人文学科廃止
2000年4月	短期大学部音楽科に音楽療法士養成教育課程を開講
2004年4月	上野学園大学音楽・文化学部を設置（音楽学部と国際文化学部を統合） 音楽・文化学部音楽学科に演奏家課程を設置
2004年11月	創立100周年記念式典挙行政
2005年4月	大学演奏家課程を演奏家コースに改称 高等学校音楽科に演奏家コースと器楽・声楽コースを設置 大学音楽・文化学部国際文化学科、短期大学部音楽科、家政科、上野キャンパスへ移転
2006年10月	日本音楽資料室を上野学園大学日本音楽史研究所に改称
2007年4月	石橋裕、学園長に就任 石橋慶晴、理事長に就任 上野学園大学・同短期大学部、上野学園中学校・高等学校を男女共学化 高等学校普通科に特別進学コースと総合進学コースを設置 創立100周年記念事業として新校舎竣工
2007年9月	上野学園楽器展示室を開室し、上野学園所蔵の古楽器を公開
2007年10月	上野学園大学日本音楽史研究所を草加キャンパスに移転
2009年4月	原田禎夫、上野学園大学・同短期大学部学長代行に就任
2010年2月	新講堂（上野学園 石橋メモリアルホール）竣工
2010年3月	大学音楽・文化学部国際文化学科廃止
2010年4月	大学音楽・文化学部を音楽学部へ改称 上野学園大学日本音楽史研究所が大学附置研究所となる

	高等学校普通科に特別進学コース $\alpha \cdot \beta$ を設置
2010年 5月	音楽文化研究センターを大学音楽学部の附属機関として設置
2011年 4月	石橋裕、上野学園大学名誉学長の称号を授与される 前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2014年 9月	石橋慶晴、上野学園大学短期大学部学長に就任
2014年 11月	創立 110 周年記念式典挙行
2015年 4月	ミュージック・リサーチ・コースをグローバル教養コースに改称 グローバル教養コースに文化創造マネジメント専門を開設 船山信子、上野学園大学学長に就任 中学校音楽コース、普通コースをアドヴァンスト・コースとプロGRESS・コースに改編 高橋公三子、上野学園中学校・高等学校校長に就任
2015年 12月	上野学園大学日本音楽史研究所を上野キャンパスに移転
2016年 4月	上野学園高等学校との連携プログラムを施行
2016年 6月	石橋香苗、学校法人上野学園理事長に就任
2017年 1月	石橋裕学園長逝去
2017年 4月	皆川弘至、上野学園大学学長に就任 石橋香苗、上野学園大学短期大学部学長に就任
2019年 4月	前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2020年 4月	吉田亘、上野学園中学校・高等学校校長に就任

II 事業の概要

<法人の事業>

1) 大学学生募集停止

上野学園大学は、昭和 33 年 4 月 1 日開学以来優秀な卒業生を輩出してきたが、少子化や社会情勢の大きな変化の中、令和 2 年度まで 4 期連続し著しい収容定員未充足となったことにより、収容定員充足率を改善できず、大学部門の財政収支の厳しい状況により、安定した財務基盤による大学教育を適正に継続していくことが困難となったため、令和 3 年度以降の学生募集を停止することとした。

大学を存続させるために、様々な角度からシミュレーションを行い、学生数が年々減少していくなかでも、高次元での教育の質を維持すべく、教員の人員を保ち学園の建学の精神を発現することに努めたが、厳しい財政収支を改善することは叶わず、苦渋の決断をせざるを得なかった。

今後は、経費見直しによる支出の削減と教学強化による事業収益の増加により、財務体質の改善を図っていく。

2) 学校法人運営調査委員による実地調査

令和 2 年 12 月に学校法人運営調査委員（文部科学省）による実地調査を受けた。学校法人の管理運営組織、その活動状況及び財務状況等に関する調査及び指導・助言を受けた。昨年に引き続き人件費削減、財務状況の改善を速やかに行うよう指導・指摘があり、日本私立学校振興・共済事業団私学経営相談センター経営支援室の助言と協力を得ながら、経営改善 5 ヵ年計画をより実効性のあるものとすることを目指す。

3) 金融機関との関係強化

金融機関と学園の取り組みや課題、対応などを共有し、信頼関係を強化することに努めた。結果として、以前と変わりなく良好な関係を維持している。

4) 学園全体に係わる主な事業の概要

学園創立116周年にあたる今年度も昨年度に引き続き、「Revalue 再び価値を見直す」「Cross-sectional 横断的な豊かな学び・研究」の視点から、教学、法人面における精査、改善を実施した。

まず「Revalue」においては、1) 伝統校として培った教育のノウハウ、知的財産を活かした特色のある学びを新たに打ち出していくこと、2) 特色ある学びに基づく一貫教育の充実に向けて環境を整備すること、3) 法人においては、平成30年度より引き続き業務改善に取り組むことに加え、業務の効率化に向けて抜本的な見直しを行うことに取り組んだ。

次に「Cross-sectional」においては、1) コースに限ることのない、横断的かつ多角的な学びの実現のための教養科目と選択科目を充実させること、2) 実技面における多角的な学びを充実させること、3) 日本と海外との交流、海外留学・研修制度を充実させること、4) 地域連携の促進を実施していくことに取り組んだ。

5) 情報発信力の強化

① 広報ツールの整備

2019年度に引き続き、広報媒体毎に資料請求者が出願する割合を算出、出願率が低い広報媒体については契約を終了することで広報コストの削減を図った。進学情報サイトへの掲載は4社に絞り込みを行っている。

<表1：2020年度資料請求者数>

	年度	2020年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
総反応数	2020	380	462	468	405	290	135	114
	2019	491	527	666	810	270	218	308
高3	2020	160	223	250	164	107	41	46
	2019	182	142	222	189	58	45	28
高2	2020	144	156	163	152	117	53	42
	2019	161	205	282	319	99	77	114
高1	2020	75	83	55	89	66	41	26
	2019	103	180	162	302	93	73	153
	年度	11月	12月	2021年1月	2月	3月	総合計	前年比
総反応数	2020	100	93	102	71	81	3,879	81%
	2019	250	226	542	303	181	4,792	
高3	2020	39	37	48	32	45	1,976	203%
	2019	34	26	28	12	7	973	
高2	2020	32	26	41	31	33	1,375	67%
	2019	86	107	395	130	71	2,046	
高1	2020	29	29	12	8	0	522	33%
	2019	109	77	95	148	96	1,591	

上記の資料請求数においては、全体的に減少している。その中で、高校3年生からの資料請求は大幅に増えている。受験学年である高校3年生の資料請求数が増加したにも関わらず、志願者

は増えていない事に対して、広報媒体のさらなる見直しを行うとともに、送付する資料の見直しを2021年度は課題としたい。

② オンラインツールの整備

2020年度においてはコロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面での広報活動が困難を極めた。広報活動が制限される中、入試・広報部門ではオンラインを活用した広報ツールの整備に力を入れ、遠隔会議システム「Zoom」を活用した個別相談や体験レッスンの仕組みの構築を行った。2020年4月7日に発令された緊急事態宣言に先立ち、中高においては3月中旬の時点でオンライン授業の試験運用、また大学においてもほぼ同時期にメールアドレスを全員に付与し、3月下旬にはオンラインレッスンを導入した。

大学・短大においては教員・学生の協力による動画を制作し、立ち上げた常設オープンキャンパスサイトへ投稿することで、遠方の受験生に対してもHPを通して本学の情報を発信することに努めた。

③ 高校との接触

コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言が発令された影響もあり、高校訪問の開始時期は遅れており、本格的に活動ができた時期は2020年9月から12月の3か月間ほどであった。その期間で訪問を実施し高校教員へ話をできた件数は375校。アポイントを取るものの面談（来客）不可という方針を取る高校が多く、資料預け及び郵送対応は71校。

音楽科設置の高等学校や本学への進学実績のある高校を中心に広報活動を行った。

④ 楽器店での出張体験レッスン

茨城県水戸市に所在する楽器店「かわまた楽器店」において、2021年2月23日に出張体験レッスンを実施した。当初は対面で実施予定であったがコロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインへ受講形式を変更した。本イベントを通じ、茨城県内の高校生への本学の認知度向上及び翌月3月に開催するオープンキャンパスへの誘導を目的としており、当日は10名の参加者がオンラインレッスンを受講、1名の参加者が個別相談を希望した。

⑤ オープンキャンパス

2020年度は下表の日程においてオープンキャンパスを実施。コロナウイルス感染拡大防止により緊急事態宣言が発令されたことで、2020年6月のオープンキャンパスはオンラインのみで実施。その後、7月・8月のオープンキャンパスは事前予約制の上一部のプログラムを来場可とし、10月以降は完全来場型とした。並行して前述に記載したオンラインツール整備の中でOCサイトを構築している。

<表2：2020年度実施オープンキャンパス参加者数の前年度との比較>

OC	実施年月日		OC参加者内訳				体験レッスン	
			全体	高校3・既卒	高1・高2	保護者他	大学	短大
(第1回)	2020	-	-	-	-	-	-	-
	2019	4月28日(日)	84	46	6	32	16	8
第1回	2020	6月14日(日)	30	24	5	0	-	11
	2019	6月16日(日)	138	60	13	65	17	9
第2回	2020	7月19日(日)	30	23	7	0	-	11
	2019	7月28日(日)	131	41	32	58	8	13
第3回	2020	8月23日(日)	29	20	9	0	-	11
	2019	8月25日(日)	184	30	89	65	14	8
第4回	2020	10月4日(日)	58	19	11	28	-	17
	2019	10月6日(日)	77	28	17	32	8	5
第5回	2020	11月29日(日)	32	10	10	12	-	13
	2019	11月23日(日)	33	12	9	12	7	3
第6回	2020	3月28日(日)	30	3	10	17	-	11
	2019	2月23日(日)	23	6	8	9	7	2
合計	2020年度		209	99	52	57	-	74
	2019年度		670	223	174	273	77	48
前年比			31%	44%	30%	21%	-	154%

2020年度の来場者は大きく減少しているが、以下が要因と想定している。

- ・大学の募集停止により、大学志望の参加者の来場がなくなった。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から来場（外出）を自粛する傾向が来場者の中にもあり、本学も来場者の同伴者数を指定する等の措置を行った。

また、体験レッスンの受講者はコロナ禍にも関わらず大きく増加したが、これは延べ数であり、本学への入学意識が高い受験生はオープンキャンパスの都度、本学へ来場している様子がうかがえる。

6) 財務基盤の改善

18歳人口が減少傾向する中での学生確保の問題、経常費補助の減少傾向等、本学園全体の運営方法の合理化と効率化なくしては本学園の財務基盤の健全化は達成できないため、財政改善の推進は学園にとって最重要課題という強い認識のもと、事務業務のIT化による効率化の一層の推進やコスト意識の更なる強化を図った。

次年度予算作成に向けて、各種経費について全てを対象に、改めて金額、是非の協議を行った。理事、学長、教員、職員のコスト意識を強化し、支出内容の精査・承認ステップの改善を図り、経費削減による収支改善の努力をした。

事業活動収支において、令和元年度マイナス41,100万円に対し令和2年度はマイナス26,600万円となり、赤字ではあるものの約14,500万円改善した。事業活動収支計について、令和2年度は令和元年度より約25,000万円削減し改善した。その内人件費は1,500万円の削減額で改善された。

7) 上野学園 石橋メモリアルホール主催・共催・協力の演奏会

本年度、上野学園 石橋メモリアルホールで開催された公演は下記の通り。

〔令和2年度 上野学園 石橋メモリアルホール主催・共催・協力演奏会一覧〕

	区分	開催日	公演名
1	協力	8月3日・4日	第44回ピティナ・ピアノコンペティション地区本選・特級
2	協力	8月16日	第21回大阪国際音楽コンクール
3	主催	9月16日	ランチタイムコンサート Vol.113 演奏家コース学生による 演奏会～心にひびくピアノ曲～
4	主催	10月17日	ランチタイムコンサート Vol.114 上野学園教員作曲家の作品
5	主催	11月11日	ランチタイムコンサート Vol.115 お話と音で綴るくりみ 割り人形
6	協力	11月22日 12月6日	ブルグミュラーコンクール2020 東京ファイナル
7	主催	12月9日	ランチタイムコンサート Vol.116 歌で楽しむクリスマス
8	共催	12月20日	第21回スガナミピアノコンクール
9	主催	1月13日	ランチタイムコンサート Vol.117 パイプオルガンコンサート
10	共催	1月13日・14日・ 15日	プロジェクトQ・第18章～若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する トライアルコンサート①・②・③
11	共催	2月21日	プロジェクトQ・第18章～若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する ベートーヴェン中期弦楽四重奏曲全曲演奏会①・②
12	協力	3月20日	東京・春・音楽祭2021 荘村清志(ギター)&藤木大地(カウンターテナー)にほんの歌を集めて
13	協力	3月21日	東京・春・音楽祭2021 東京春祭ディスクヴァリー・シリーズ vol.7 ジャコモ・プッチーニ
14	協力	3月25日	東京・春・音楽祭2021 伊藤悠貴
15	協力	3月29日	東京・春・音楽2021 Trio Accordー白井圭(ヴァイオリン)、門脇大樹(チェロ)、津田裕也(ピアノ)
16	主催	3月31日	ランチタイムコンサート Vol.119 古楽への誘いXII

<大学・短期大学の事業>

1) 遠隔授業・レッスンの実施(大学・短期大学部)

コロナ禍における学生の学修機会を確保するとともに、新型コロナウイルスへの感染リスクを低減するため、遠隔授業・レッスンを実施した。実施に当たっては、構内に Wi-Fi 環境を整え、十分な通信環境を持たない学生や自宅での楽器の音出しが困難な学生へ遠隔授業受講用の講義室やレッスン室を開放した。また全学生へメールアドレスを付与し、メールでの課題のやり取りや教員からのフィードバックを可能にした。

同時に、学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段として「さくら連絡網」や「学内者専用ホームページ」を活用し、学生からの相談に応じるための問合せ窓口用メールアドレスを開通した。

後期授業においては直接の対面による学修機会を提供するため、教室の規模、履修人数、授業内容等を総合的に考慮し、学生の状況や希望等も踏まえながら対面授業と遠隔授業の併用を進めた。

2) カリキュラムの変更 (大学)

履修可能なコースが限定されていた「聴音」「鍵盤和声」「音楽理論上級」「ソルフェージュⅢ」について、全専門の選択科目として開放。また「和声法Ⅱ」を新設するなどして、音楽基礎科目の充実を図った。

外国語科目においては、英語Ⅰ履修前の基礎力をつけるクラスとして「英語基礎」を設定し、基礎力の底上げを図った。同時に英語レベルの高い学生に対しては英語力と意欲に沿った教育を提供するため、少人数の上級クラスを設定できるようにした。

3) 長期履修学生制度 (短期大学部)

平成 27 年度に開設した「長期履修学生制度」は、運用開始から順調に一定数の入学生を得ている。

	年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
長期履修学生 (人)		5	3	5
入学者数における割合 (%)		11.9	7.5	13.5

社会人学生も一定数在籍し、修学者の多様性は本学の特色の一つとして定着し始めている。その中には、在学中に長期履修学生に変更する者もいる。この申し出は、自身の生活に沿った学びの形を実現するための変更として活用され、制度のもつ意義を活かした修学環境の提供となっている。

4) 演奏活動 (大学・短期大学部)

令和2年度に実施した大学および短期大学部主催・参加の演奏会は下記の通りである。

主催公演は台東区の後援名義を得て、台東区内の周知を強化し、開かれた大学の姿を地域に示している。例年多数寄せられている地域からのイベント出演要請については、新型コロナウイルス感染症の影響から、イベントそのものが中止といったケースが相次いだ。このような情勢ではあったが、本学主催演奏会については感染対策を徹底し、教育成果の発表の場を閉ざすことなく一定回数の演奏会を開催することができた。また、令和元年度大学卒業演奏会も1年遅れで実施した。

〔令和2年度上野学園大学・同短期大学部主催・参加演奏会 (一部ホール主催公演と重複) 〕

日付	演奏会	会場
7月1日 (水)	古楽研究室 昼の演奏会	上野学園 エオリアンホール
7月21日 (火)	古楽研究室 昼の演奏会	上野学園 エオリアンホール
9月16日 (水)	ランチタイム・コンサート 〈演奏家コース学生演奏会〉	上野学園 講堂
9月26日 (土)	第13回上野学園古楽器コレクションミュージアム・コンサート	上野学園 講堂
10月8日 (木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 25	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂

10月17日(土)	演奏家コース オータム・コンサート	上野学園 講堂
10月24日(土)	第33回 短期大学部定期演奏会	上野学園 講堂
11月19日(木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ26「ボン時代のベートーヴェン」	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
11月21日(土)	第69回 オーケストラ定期演奏会	上野学園 講堂
11月22日(日)	第11回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2020	東京芸術劇場
12月23日(祝水)	上野学園大学合唱団ウィンター・コンサート	上野学園 講堂
2月3日(水)	ランチタイム・コンサート〈学生企画シリーズ〉弦楽合奏 ※学内公開	上野学園 講堂
2月12日(金)	演奏家コース 協奏曲演奏会	上野学園 講堂
2月19日(金)	古楽研究室演奏会	上野学園 エオリアンホール
2月18日(木)	第7回 ウィンド・アンサンブル定期演奏会	上野学園 講堂
2月27日(土)	短期大学部音楽科卒業演奏会	上野学園 講堂
3月5日(金)	大学音楽専攻科修了演奏会(公開試験)	上野学園 講堂
3月6日(土)	大学音楽学部卒業演奏会	上野学園 講堂
3月11日(木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ27「春への想い」 ※旧奏楽堂での公演は中止	第1リハーサル室
3月13日(土)	大学音楽学部卒業演奏会2019	上野学園 講堂

「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」・「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」への参加は恒例となっている。他音楽大学との交流を図り、上野学園大学管弦楽団の音楽的・技術的質の向上を推進した。学生にとって、学外のコンサートホールでの演奏、他音大学生との共演は大きな刺激となり、主催公演のオーケストラ定期演奏会や協奏曲演奏会での取組に反映されている。

また、学生数が多い管楽器では、ウィンド・アンサンブル定期演奏会において、外部から指揮者を毎年度招へいしている。吹奏楽部に力を入れている高校を招待する等、学生募集の一翼を担う演奏会でもあり、9月のウィンド・アンサンブル発表会(本年度は中止)とも連携している。

次の公演は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑み、中止となったが、第9回合唱定期演奏会は12月に「上野学園大学合唱団ウィンターコンサート」として開催し、学修発表の機会を維持した。

日付	演奏会	会場
5月16日(土)	春の演奏会2020	上野学園 講堂
6月17日(水)	演奏家コース サマー・コンサート	上野学園 講堂
11月13日(金)	第9回 合唱定期演奏会	上野学園 講堂
12月2日(水)	演奏家コース ウィンター・コンサート	上野学園 講堂

12月23日(祝水)	歳末助け合い運動 第61回 慈善演奏会	上野学園 講堂
3月27日(土)・28日(日)	第10回 音楽大学フェスティバル・オーケストラ	ミューザ川崎シンフォニーホール 東京芸術劇場

5) ボランティア活動(大学・短期大学部)

出張演奏会「上野学園ハートフル・コンサート」を、平成21年度後期から開催している。近隣の病院及び保健所と協定書を交わし、地域と連携した取り組みを継続している。また、平成25年度から行っている東北福祉大学と協働でのボランティア活動も定着しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての活動が見送られた。

6) 特別公開講座の実施(大学)

令和2年度に実施した特別公開講座は次の通り。

[令和2年度 特別公開講座]

日付	内容	講師/演奏者
11月21日(土)	第69回 オーケストラ定期演奏会	清水醜輝非常勤講師指揮 上野学園大学管弦楽団
12月23日(祝水)	上野学園大学合唱団ウィンターコンサート	中村拓紀非常勤講師指揮 上野学園大学合唱団
2月12日(金)	演奏家コース 協奏曲演奏会	清水醜輝非常勤講師指揮 上野学園大学管弦楽団
2月18日(木)	第8回ウインド・アンサンブル定期演奏会	山上純司指揮 上野学園大学・同短期大学部 ウインド・アンサンブル

7) 公開レッスン・その他の講座の実施(大学)

令和2年度に予定していた次の公開レッスンは、新型コロナウイルス感染症の影響により来日が難しく、中止となった。

9月23日(水) 16:00~19:10	ピアノ公開レッスン 講師：シュテファン・アーノルド氏(ウィーン国立音楽演劇大学 ピアノ科教授) 場所：第1リハーサル室
11月4日(水) 17:40~19:10	ピアノ公開レッスン(特別講座) 講師：マティアス・キルシュネライト客員教授 場所：講堂

8) FD活動(大学・短期大学部)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年の通りの教員による研究発表を行うことはできなかったが、FD委員会を開催し、各種アンケートについて検討および確認を行った。実施したFD委員会は次の通りである。

第1回 FD 委員会（大学・短期大学部）（書面による持ち回り）

日時 令和2年7月第2週

- 議題 1. 令和2年度授業評価アンケートの実施及び設問の確認
2. 令和元年度学生生活実態調査報告書の確認

第2回 FD 委員会（短期大学部）（Zoom）

日時 令和2年10月14日（水）

議題 遠隔授業の課題共有と解決策の検討 ～学生質問結果を基に～

第2回 FD 委員会（大学）（書面による持ち回り）

日時 令和3年2月第2週

- 議題 1. 令和元年度授業評価アンケート実施報告書の確認
2. 令和2年度遠隔授業アンケート報告書の確認

第3回 FD 委員会（短期大学部）（書面による持ち回り）

日時 令和3年2月第2週

- 議題 1. 令和元年度授業評価アンケート実施報告書の確認
2. 令和2年度遠隔授業アンケート報告書の確認

遠隔授業の開始は、必然だったとはいえ教育の大きな転換となった。教員、学生の誰もがほぼ初めて経験する遠隔による授業・レッスンは試行錯誤から次第に方法、スタイルが確立され、同時に課題も見えてきた。アンケートの実施で、この点を可視化することができた。

9) IR 活動（大学・短期大学部）

IR 委員会により、新入生アンケートと卒業時アンケートに加え、学生生活実態調査の定期的実施が確立されている。入学時の期待感と卒業時の達成度、在学中の学修時間を継続的に測る仕組みが整えられ、定着している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、新入生アンケートの実施を見合わせた。

10) 教員免許状更新講習の実施（大学・短期大学部）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一部の選択科目に限定してオンラインで開催した。

8月17日（月）箏の実技及び箏を用いた授業づくり

9:00～12:20 箏の実技講習

深海さとみ

13:20～16:40 箏を用いた授業の実際

山内雅子

受講者数は13名（定員は20名）。受講者アンケートの結果は「十分に満足」が大半であった。初めてのオンライン講習となったが、事前にテスト受講日を設けるなどして、当日の講習はスムーズに行われた。本講習をきっかけに「勤務校でも Zoom 授業を取り入れられた」「実際に箏を使用した授業を行えるようになった」という声も聞かれ、本学の教育を生かした講習会を提供することができた。

1 1) 日本音楽史研究所の事業 (大学)

貴重書を含む古典籍と楽器類について、国文学研究資料館への寄託を予定しており、古典籍蔵書目録の作成が必要となった。平成 31 年 3 月に、能楽部門（観世流謡本）と仏教音楽部門（声明史料）の一部を国文学研究資料館へ寄託した。令和元年 3 月には、楽器史料を寄託した。令和 2 年度は寄託事業の最終年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学内で寄託内容を検討出来なかったため、寄託事業は来年度へ延期したい旨、本学法人より国文学研究資料館へ申し出た。

すでに寄託された史料については、国文学研究資料館が史料のデジタル化を行い、學術情報を発信することで、日本音楽史研究所の研究協力体制を強化していく。

草加校地より上野本校へ移動した文献類は、寄託作業が終わり次第、順次整理する。通常業務については、下記のとおり。

①一般業務

- ・史料の収集・維持（保存・修繕・調整）
- ・史料調査・研究
- ・史料閲覧：蔵書整理のため一般の閲覧停止
- ・運営委員会（毎月開催）
- ・研究年報『日本音楽史研究』第 9 号 編集・執筆

②架蔵史料等目録の編纂とそのデータベース化準備等の調査研究事業

- ・雅楽部門：407 箱及び史料 51 点の簡易目録化済。
- ・仏教音楽部門：声明 382 箱及び史料 5 点の簡易目録化済。
- ・能楽部門：約 1500 箱の書誌調査・簡易目録原稿作成が終了。観世流謡本については『日本音楽史研究』第 9 号に目録を掲載予定。
- ・近世部門：658 箱及び史料 12 点の簡易目録化済。
- ・史料のデータ化：主にマイクロフィルムのデジタルデータ化。519 本中 148 本終了。

○調査研究

- ・『日本音楽史料叢刊 3 楽人補任総覧』編集・刊行（翻刻・図表資料は最終校正に入った。楽人略記等原稿の執筆作業を進めている）
- ・櫻井利佳講師が、科学研究費補助金事業 基盤研究 C「琵琶師伝集『故琴教録』の総合的研究」研究代表者 スティーヴン・G・ネルソン法政大学教授（助成期間平成 29 年度～平成 31 年度）の研究分担者として従事した。その成果として、令和元年 12 月には説話文学会・仏教文学会 12 月合同例会（於二松学舎大学中洲記念講堂）にて研究発表を行い、同内容の本を令和 3 年度刊行予定である。なお、同じ研究会による研究成果として、令和元年 8 月には興福寺会館に於ける公開シンポジウムにて研究発表を行った。
- ・研究年報『日本音楽史研究』第 9 号を令和 3 年度に刊行すべく、編集執筆作業の再開。近年の緊縮財政の中ではあるが、紙媒体による発行への要望が外部より多数届いている。特に主な理由としてはまた今回 2 本の研究所架蔵目録を収載する為、各関係研究機関にて十分活用される為には、冊子体が望ましいとのことである。

○日本音楽史論文集編集刊行事業

執筆者：福島和夫特任教授、新井弘順専任研究員、磯水絵特別研究員（二松学舎大学教授）、スティーヴン・G・ネルソン特別研究員（法政大学教授）、飯島一彦特別研究員（獨協大学名誉教授）、新井弘賢特別研究員、萩美津夫（新潟大学名誉教授）、末柄豊（東京大学教授）、塚原康子（東京藝術大学教授）、山寺三知（國學院大學北海道短期大学部教授）、王小盾（温州大学教授）、豊永聡美（東京音楽大学教授）、竹内有一（京都市立芸術大学教授）、三島暁子（元日本音楽史研究所研究員）、櫻井利佳講師

令和2年度は編集作業をし、令和3年度に刊行予定。

○研究者受入・科研費関係

- ・令和元年度より3年間、早川太基氏（北京大学文学博士）を日本学術振興会特別研究員PDとして受け入れた。令和2～3年度は特別研究員奨励費（科研費）を取得した。
- ・グローバル教養コース田中里佳准教授が、今年度採択された基盤研究（B）「大学の教員養成における「省察」言説の生成・受容とその問題に関する総合的研究」（研究代表者 山崎準二 学習院大学教授、研究期間令和2～5年度）の研究分担者として、研究に従事。科研費執行に伴う学内処理を、当研究所職員が担当する。

1 2) 就職支援：キャリア支援センター（大学・短期大学部）

① 就職支援の取り組み

一般企業への就職支援、低学年次からのキャリア意識の醸成、音楽能力を活かした進路への支援等、かねてから続き、学生の職業選択の幅を広げるべく取り組んできた。学生の卒業後の動向については、局面に応じて職員・教員間で情報共有し、進路不明者の減少対策の充実施策を検討・実施をした結果、短期大学部では、就職希望者が全員就職を果たすことができた（就職率100%を達成）。

② キャリアカウンセラーの配置と個別指導の徹底・強化の継続

キャリアカウンセラーによる個別面談（予約優先制）の他、就職活動・進路決定のうえで役立つ下記支援の実施を続けている。月～金・10：30～17：30のあいだキャリアコンサルタント有資格者が在室しており（コロナ禍にあるため、相談の時間帯を従来から1時間後ろ倒しにしている）、より相談がしやすい環境づくりに努めている。

支援内容としては、「自己分析」、「適職相談」、「履歴書の書き方」（自己PR・学生生活で力を注いだことなどの書き方）、「企業・業界研究」、「インターンシップへの参加」、「応募書類添削」、「ビジネスマナー」、「面接対策」、「筆記試験対策」「就職情報の提供」「進学・留学関連情報の提供」「内定後の相談」などである。

③ 低学年次学生対応

早期キャリア教育の重要性の再認識のもと、低学年次（就職活動をする学年以外）の学生が、より気軽にキャリアカウンセリングを受ける機会を促進するため、キャリアセンターの活動に関する告知・掲示等を本年度も行った。教員志望の学生には、学童保育指導員の短期アルバイトやボランティアの紹介先をサーチし、希望進路に関連したアルバイト先・ボランティア先等を紹介するなど教職担当教員と連携しつつ、今年度も実施をした。

④ メール・電話相談の利用の推奨

コロナ禍にある本年度よりメール・電話での相談も実施をした。外出自粛を呼びかけられることも多くあるなかで、対面相談の利用を促すことができなかったため、苦肉の策でもあった。しかし、結果としては、学生からはエントリーシートの添削などが自宅でも受けることができる、などの好評を得ている。

本年度のメール相談の総計は、エントリーシートの添削などを中心に 345 件に及んだ。

⑤ 音楽教室講師希望者支援

本年度も今まで同様に、在学時から講師のアルバイトを経験することも、より講師の仕事理解を深めることにもなるため、アルバイトの斡旋なども行った。しかし、コロナ禍にあったため実際にアルバイトの経験を積むまでには至らなかった。なお、近年はピアノ専門を中心に音楽教室講師希望者の受検申告が非常に減少してきている。

⑥ 教員希望者支援

今年度は教職担当教員との連携をさらに深め、私学教員・臨時任用・非常勤講師などの求人情報を共有し、スピードをもって卒業生も含む人材の推薦なども行っていった。

また、現在は教職における採用面接でも、ストレス耐性や柔軟なコミュニケーション力などが年々重要視される度合いも強くなってきているため、キャリア支援センターでの面接練習なども促進している。

⑦ 提携企業とのインターンシップ実施

以前から引き続き、音楽療法を積極的に取り入れているデイケア老人福祉施設・学童クラブ・児童館運営などの事業を行う企業 2 社と連携し、音楽療法および学習補助・介護補助を行うインターンシップを実施した。そのなかで参加を希望する学生には、当該施設において、1～5 日間程度のプログラムを体験することを想定し、インターンシップ参加にあたっての事前学習(ビジネスマナー・インターンシップにおける目標の設定・コロナ禍のため感染症感染予防についての施設側との情報共有等)も行った。そのうえで、インターンシップ期間中は、より深い学びへとつなげられるよう活動記録を作成し、学生から受け入れ先の職員への提出を課した。インターンシップ終了後は事後学習を実施し、今後の進路選択などに役立つよう、経験の整理・振り返りを行った。

⑧ メールマガジンの配信・WEB 求人検索サイトなどの学生へのダイレクトな発信力の強化

今年度より卒業年次生と翌年卒業見込生に向けて、月に 2 回程度のメールマガジンの配信をはじめた。コロナ禍で対面式ガイダンスの実施が難しいなか、学生にメールで「就職活動において今何をすべきか」などの情報の発信を続けている。

また、本学学生専用の求人閲覧 WEB サイト(キャリアタス UC)の求人も今まで以上に精査をし、学生へ利用を促した。外出ができない・企業説明会の参加などできない状況下にあっても、WEB を使用して求人を探ることができるよう、より環境を整えることに注力をした。

<中学校・高校の事業>

1) 広報活動の強化

① 生徒募集活動の実施

前年度に引き続き募集推進会議を開催、学校説明会や進学相談会開催前に実施内容の指示や確認を行った。通年通り計画的な広報活動を実行しようと試みようとしたところ新型コロナウイルス感染拡大により頓挫した。迅速な軌道修正を行い、5回のオンラインでの学校説明会、2回のオープンスクール及び3回の入試体験。外部進学相談会がほぼ中止となったため、学内にて小規模の説明会、夜間の説明会も実施した。

特に中学校では、直近の大学入試改革を鑑み、今日の子ども達が将来求められる力、上野学園中学校でフィールドワークを実施する理由について、本中学で行っている様々な取り組み事例と合わせて紹介を行った。特に極力毎回生徒の姿を見せるように工夫し、在校生・卒業生のありのままの姿をお見せした。決して、勉強だけではない、本校の豊かな人間性を育成する校風、教育の取り組みに魅力を感じていただける方も多くいた。フィールドワークから探究学習につなげ、一人一人に合った進路をみつけるという本校の取り組みをアピールできたと考えている。

また、中学入試では、昨年度に引き続き、得意科目2科（1科）選択型などで、受験生達が自分の得意分野を生かした試験に積極的に出願してくれた。特に適性検査型は、「都立白鷗中学校」の併願先として認知してもらえるように広報活動を続けてきた。公立一貫校受験塾の最大手「ena」にも定期的な情報発信、模試会場貸し出しなどを通して良いアピールができた。2月1日以降も多くの出願があり、その結果、適性検査型受験生は延べ196名。昨年度比16%の増加となった。昨今、ほとんどの学校が適性検査型試験を導入する中、これだけ集めることができたのは大きな成果であった。

入学生も増加し、適性では10名と昨年度比50%増、全体では60名と昨年度比19人増という結果だった。近年、受験生が偏差値だけでなく、学校の雰囲気や取り組みをみて学校を選択する傾向もあるようで（日能研講演）、多くの学内説明会を通じて本校の生徒を主体とした学校づくりに興味をもって頂けたのだと考えている。また、インターエデュに委託した塾訪問も効果を上げていると考える。

高校受験に関しては、昨年度の中3生が例年に比べ非常に減少傾向にあり、かつ競合校はコロナ禍によって推薦基準を緩和したが、本校はほぼ緩和しなかったことが影響し、学内進学者が昨年多い数であったものの、普通科で122名、音楽科6名と昨年より大幅な減少となった。普通科は特に単願での希望者が昨年より40名近く減らし、入学生数を確保できなかった。来年度以降は、都内の中3生の数は増加していくが、一方で、都立高校倍率は落ち込んでいるので、併願での戻りが依然少なくなると予想される。単願受験者をしっかりと確保した上で、併願者は都立の比較的倍率のつく高校の併願校として認知してもらうことが必要である。特に特別進学コースが19名の定員割れを起こしているため、推薦基準の加算を緩和し、内申だけで評価しない、受験生がより受験しやすい環境を整備していくことが必要である。

その他、中高生徒から有志を募り、「上野学園コンシェルジュ」を組織、学校説明会時の受付、施設案内、個別相談など生徒達が主体となって、例年より説明会の運営に関わる場を作った。受験生と等身大の本校生徒達と関わる機会を設けることで、受験生とその保護者の持つ入試への不安等を和らげることができた。アンケート結果からも、「上野学園コンシェルジュ」の存在が受験へと導いた例が数多くあり、その成果があったことがわかった。この組織に参加することは、本校生徒にとっても教育上大変良い影響を生んでいる、という実感を得た。近年、大学進学におい

でも特別活動を重視する傾向であり、本校生徒の大学進学への活動実績につながると考えている。

夏休みに開催したオープンスクールでは、授業体験や部活体験を行い本校の雰囲気を実体験できる機会とした。また教職員は、説明会前に必ずリハーサルを行い、保護者・受験生にわかりやすく、明確に伝わる説明になっているかをチェックした。説明会終了後は、すぐに反省会を行い、そこで出された良かった点、悪かった点を精査した上、次の説明会に反映した。

② 塾訪問・学校訪問

昨年度より、インターエデュ社 の塾訪問代行のサービスを取り入れ、年間 600 塾以上を訪問いただいた。担当者は何度も本校に足を運び、学校の中身をよく理解した上で訪問をしてくださいました。アポイントを取って訪問をしていただけるので、その後に繋がる塾も多く、教室での学校説明を実施させていただいた教室もあった。また、同社は ena のグループ会社であり、ena のエリア長会議に年間 3 回出席させていただき、直接学校の情報を先生方にお伝えすることもできた。これによって、各エリアに情報を下ろしていただいたのも、受験生増員につながった。

中学校訪問は、各教員の担当を 2 校と少なくし、年間最低 2 回の訪問をお願いした。塾訪問に人員を割かなくても良くなった分、広報の教員は中学校訪問を多めに入れることができたのも良かった。

また、塾及び V 模試、W 模試への会場貸し出しや、本校での塾別学校説明会の実施を複数回おこなうことで本校の教育の取り組みを理解いただき、多くの出願に繋がった。今年度は、北辰模試にも積極的な貸し出しを行い、埼玉への広報に繋げていきたい。

③ 中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒募集の実施

新型コロナウイルスの国内感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令され、例年と同じような外部訪問（学校、楽器店、音楽教室）が思う様な実施が出来なかった。その分オンラインにて相談を受けることが主流となる。

- ・感染防止を考慮した上で学校を極力絞り、高校音楽科へ入学をした生徒の卒業中学に対し、御礼と共に入学後の生徒の様子を報告し、併せて、今後の生徒依頼を行った。

- ・中学音楽コースのより徹底した周知を図るため、学校説明会及び個別相談窓口において、音楽コース入学希望者に対し、本校の学びやその体制、環境等をより具体的かつわかりやすく説明するようにし、夏期・冬期音楽受験講習会の中でも保護者に対して積極的な声掛けと、問い合わせや要望に対し迅速に対応した。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の中、感染防止対策を徹底させた上野学園の姿勢を丁寧に説明し、レッスンや演奏会を可能な限り開催し、音楽の学びを止めない本学の教育方針を明確にした。受験生に対して、安心して学べる可能な限りの配慮を行った。

- ・音楽科説明会では、なるべく時間を短く、その中で簡潔にご理解頂く為の配布資料や説明方法の見直しを行った。

- ・中高音楽科が主催する演奏会や講座に於いて、感染対策上来聴者制限をする必要があり、これまでのようなご招待をすることが叶わなかったが、来校履歴のある受験生や、資料請求者、これまでに生徒を入れて頂いた外部指導者へダイレクトメールで学校発信を行った。

- ・本校卒業生に対しては、広報物の大型発送、公開講座の聴講開放（6月）により、来校の機会を設け、現在の音楽科の取り組みと、それによって培われた生徒の様子を見る事により、改めて母校の魅力を理解し、発信する一員となるよう、一昨年に引き続きコミュニケーションを図つ

た。

・ホームページのブログ更新もこれまで以上に頻度を上げ行い、音楽科生徒の学びの様子を積極的に発信した。体験レッスンの受け入れ強化を図り、ホームページから申請が可能な環境が機能し、より多くの体験レッスン希望者を受け入れる事ができた。

近年、生徒は自身の専門実技の学びと共に、創作活動に興味を持つ傾向が見られ、演奏研究授業のオペレッタ創作の充実を図り、特徴的な授業を上野学園の魅力の一つとして説明会や個別相談にて取り上げた。感染対策上来校出来ない保護者に対し、オンラインでの同時発信を試みた。また音楽科主催の演奏会へ出演した生徒に希望で編集した演奏DVDを提供し、生徒、保護者の要望に応じている。

2) 学力レベル向上への取組み

本年度は、センター試験が大学入学共通テストに移行した最初の年であった。加えて、コロナ禍への各大学の対応もあり、非常に先の読めない不安定な入試状況となった。ここ数年顕著であった定員の厳格化を各大学が徹底するなかで、一般入試ではなく年内の総合型選抜や学校推薦型選抜を利用し、早めに、安全に、進路を決定しようとする傾向が特に強く見られた。本校は受験学年となった高校3年生の代から総合的な学習の時間にチーム探究に取り組む「My Project」を導入していたこともあり、探究過程や探究成果をもとに総合型選抜にチャレンジできる生徒が多かった。コロナ禍で大会などが軒並み中止となった運動部を中心とした部活動を入試で利用できない状況において、探究を入試に利用した生徒が7割近くにのぼり、今後、探究活動を軸として年内入試に挑戦する生徒は増加すると考えられる。

また、特進クラスに関しては、当初想定していた学力向上を目的とした受験指導が十分に行えず、結果として国公立大学合格者を1名しか出すことができなかった。共通テストへの対応とともに、十分な演習時間、定着時間の確保が課題となった。一般選抜でのGMARCHレベル合格数は昨年度を超えたものの、国公立・早慶上理への挑戦者数が減ったことは看過できない。来年度は十分な準備のうえ、チャレンジする雰囲気を作っていく必要がある。

① 放課後講座の実施（学内教員担当）

昨年度に引き続き、中学1、2、3年、高1特進、高2特進、高3では、学内教員による放課後講座を実施し、基礎力や応用力の向上を図ったが、コロナ禍による休校、オンライン授業、下校時間の前倒しなどにより、十分な時間を確保できなかった。

② 中高全学年対象講習の実施

中学、高校ともに夏期および冬期講習を一部期間に限定し実施した。残念ながら一昨年度からの取り組んでいるSTEAM教育に連動したサマースクールは実施できなかったが、来年度以降再度継続的に実施できるように工夫したい。

③ 高1、高2の特進コース対象勉強合宿

今年度はコロナ禍による宿泊行事取りやめ措置により、例年実施していた勉強合宿は実施しなかった。

④ 各種検定の実施

目標を達成することの満足感や学習への動機を高めるため、検定合格に向けた指導の充実を図り、多くの検定に生徒を挑戦させた。(例：英語検定、漢字検定、数学検定、硬筆・毛筆書写技能検定、ニュース検定等)

⑤ 自学自習の構築

生徒が「SAKURA 手帳」を活用し、自らスケジューリングやタスク管理を行っている。定期考査については、各教室・廊下の掲示を使い、2週間前からカウントダウン方式で考査日までの日数を表示、生徒自身が勉強の計画を立てた。生徒の自習場所として、考査1週間前からは4階フロア全体を自習スペースとして開放した。進路指導部の教員が、その補助的役割として下校時間まで自習監督、相談要員としてサポートを行った。

また「Classi」自学支援オンラインツールの活用も深まり、未習範囲や取りこぼした範囲もいつでも映像やWEB問題で振り返られるようになった。アダプティブな学習とその支援体制がICTツールによって構築された。卒業生チューターについてはコロナ禍による来校制限にともない、今年度は運用しなかった。

3) 教員の指導力強化

本年度は、コロナ禍にともないオンライン学習を行うなかで、どのような授業ができるか教員同士研究し、新たな授業づくりを行った。また、新任教員研修として、当該教員の授業を公開した。授業には、それぞれ約10名の教員が参観し、授業後に各教科会議で評価される点や改善点等の意見交換を行い、新任教員が効果的に経験を積み、能力を向上できる機会を作った。

教員の指導力強化に当たっては、私立中高協会や私学財団、塾等の外部機関が主催する研修やセミナー、研究会等への積極的な参加を促進しており、多くの教員が実際に自身の能力向上に資すると考える研修等に参加した。研修等に参加した教員は、その内容を、職員会議で発表し、他の教員と情報共有を行った。

さらに、「探究科」を設置し、中学におけるフィールドワーク、卒業研究、高校における探究学習について研究、実践を行った。中学3年生による卒業研究の発表は、コロナ禍にともなう中止により、探究活動の成果を共有することが難しいなかで、教員、生徒とともに何ができるか時間をかけて検討し、1日校外研修やオンライン発表の開催など新たなチャレンジを各学年で行った。

こうした、教員の指導力強化、探究学習の研究・実践と並行し、授業環境の改善も昨年度同様、継続して行った。具体的には、中学1年～高校3年まで、一人1台iPadを所有し、授業で活用できる体制を整えた。また、各教室のプロジェクターを新型の機種に入れ替える工事を完了し、iPadを用いた授業の効率化を実現した。

4) 生徒指導の充実

本年度は、遅刻指導、生徒指導内規の見直し、組織的指導体制の確立の3点を目標とし生活指導の充実に取り組んだ。

1点目の遅刻指導では各クラス、各学年において一定期間内に一定の遅刻回数に至った生徒を生徒指導部の教員が面談する方法をもって対応。通期的に見れば遅刻の減少が認められた。今後も担任、学年と協力して組織的に指導する体制を確立することも含めて継続したい。

2点目の生徒指導内規の見直しについては、まず部内で何度も審議し、その上で全教員にも十

分に議論してもらって内規改訂に至った。

3 点目の組織的指導体制の確立については、現場の最先端である担任が生徒指導的事象において孤立することのないよう、生徒指導案件では審議の段階から度々会議を開いてコンセンサスを図り、また、実際の指導的場面では生徒指導部と学年、担任であった。また、上記の遅刻指導も担任が一人で大変な生徒を抱えないよう組織的に指導していくことを意図したものである。

〔生徒会行事〕

実施日	行事名	対象
6月9日(水)・10日(木)	新入生部活説明会	新中1・高1
9月16日(水)	自転車安全教室	自転車通学希望者
9月19日(土) 9月20日(日)	桜鏡祭	全校生徒
10月	生徒会選挙	全校生徒

5) 生徒の健康と安全

校内の救急体制の整備のため、下記取り組みを行った。

① 健康上注意が必要な生徒の共有

保健調査票や健康相談から実技教科などで配慮が必要な生徒について校内で共有した。

② 食物アレルギーの知識の普及・研修会の実施

食物アレルギーのある生徒を共有した。新任研修で食物アレルギーの緊急時の対応を確認した。

③ 教職員、生徒対象救命救急講習会の実施

教職員・生徒希望者対象の普通救命講習会を12月に実施した。令和2年度に、東京消防庁から教育機関の教職員の30%以上が有効期限内にある救命講習受講修了者であり、かつ応急手当普及員が養成され、救命講習の普及に活用されているという要件を満たし、3年間有効の救命講習受講優良証を再交付された。

④ 中学3年生対象 HIV 講習会の実施～命の大切さを学ぶ～

台東保健所の「HIV 予防啓発事業」を活用し、中学3年生対象に外部講師による HIV 講習会を2月に開催した。

6) 中学校音楽専門、および高等学校音楽科生徒によるコンサート

本年度に実施した中学校音楽専門、高等学校音楽科生徒出演の主な演奏会は下記の通り。

〔令和2年度 中学校音楽専門、音楽コース・高等学校音楽科生徒による主なコンサート〕

実施日	演奏会	会場
5月9日(土) 延期	中二・高二演奏会	上野学園 講堂
10月25日(日) 延期開催		

6月27日(土)	高等学校音楽科 ミハイル・カンディン スキー先生のピアノ公開レッスン	上野学園 講堂
7月10日(金) 中止	演奏家コース室内楽前期発表会	上野学園 講堂
9月19日(土) 9月20日(日)	桜鏡祭演奏会	上野学園 講堂
11月28日(土) 延期 2月6日(土) 延期開催	中高総合演奏会	上野学園 講堂
12月12日(土)	高3音A組 演奏研究発表会	アンサンブル室
2月13日(土)	高校卒業演奏会	上野学園 講堂
3月12日(金)	演奏家コース室内楽後期発表会	第1リハーサル室
3月13日(土)	中学卒業演奏会	上野学園 講堂